

1. 基本情報

- (1) 国名：ホンジュラス共和国（以下、「ホンジュラス」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：バジェ県ナカオメ市
- (3) 案件名：国道 1 号線橋梁架け替え計画（The Project for Reconstruction of Bridge on CA1）
- (4) 計画の要約：本計画は、中南米地域の物流の要であるパンアメリカンハイウェイを構成するホンジュラス国道 1 号線において、老朽化したグアシロペ橋を架け替えることにより、域内の物流促進及び橋梁の安全性を確保し、もって同国及び周辺地域の生活基盤の維持や経済活動の活性化に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ホンジュラスは、中南米の中でもハイチ、ニカラグアに次ぐ貧困国であり、都市部と地方の所得格差も大きい。ホンジュラスを含む中米地域においては、域内の安定と繁栄を図るため、中米統合機構（SICA）を中核とした政治・経済面での地域統合が進められており、その円滑な進展のためには域内の物流を促進するとともに、域内国であるホンジュラスの安定及び発展が不可欠である。

また、2018 年 12 月に我が国が提唱した日・中南米「連結性強化構想」における経済・価値・知恵の連結性強化の観点からも、本計画を通じ中南米地域の物流の要であるパンアメリカンハイウェイ（以下、「PAH」という。）上に位置するグアシロペ橋の架け替えに協力することは、高い外交的意義を有する。

- (2) 当該国における道路・橋梁セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ホンジュラスにおいては、陸上貨物の大半が陸路で輸送されているが、同国全土の舗装率は 22.5%と未だ低く、損傷度が高く補修等が必要な橋梁は全体（1,007 橋）の 25%以上に及ぶ等、運輸インフラの維持管理は喫緊の課題である。中でも国道 1 号線（以下「CA1」）は、北・中南米を結び、陸上輸送の基幹をなす国際幹線道路である PAH の一部を構成し、同国の輸出入貨物のうち 23%が同国内の PAH を通過するなど、域内及び同国の経済の維持・発展、ひいては域内住民の雇用や生活にとって重要な役目を担う。

グアシロペ橋が位置するバジェ県は、貧困率が 76.4%と、国内平均 64.5%に比して高い（同国国会統計院、2013 年）。同橋は、地域の主な雇用の受け皿で

あるエビ養殖やメロン栽培等の生産物の輸送等に活用されており、また約 6 万人の周辺住民の学校や病院等の基礎サービスへのアクセスのためにも重要な役割を担っているため、その機能の保全は、地域住民の生活及び経済活動の維持・促進において重要な意味を持つ。加えて同国は、1998 年に 14,600 名を超える死者を出したハリケーン・ミッチを始め、ハリケーンや地震、土砂崩れが多発する国であり、自然災害への脆弱性を抱えているため、被災時の周辺住民のライフライン確保の観点からも、耐候性や耐震性の高い橋梁が求められている。

こうした背景から、ホンジュラス政府は PAH の安全性を重視し、CA1 に残る最後の老朽化した大規模橋梁であるグアシロペ橋の架け替えを、技術力に信頼を寄せる我が国に要請した。中米各国は PAH の安全性確保のため、統一的な基準を設定しているが、グアシロペ橋は 1943 年に建設されたため、耐荷重や上部工の高さなど 2010 年に改定された PAH に求められる設計基準を満たしておらず、また建設当時の想定以上の交通量（6,365 台／日）が橋の劣化を早めていることから、同橋の架け替えは緊急性が高い。

また、中米地域で社会問題化している米国を目指す移民の増加の主因には、雇用不足や低収入などが挙げられている。そのため、域内諸国は、移民発生を抑制するための対策として、産業振興や生産性向上に加え、域内での貿易促進の必要性を訴えており、運輸網整備への重要性が再認識されていることから、本計画は中米域内においても優先度の高い事業として位置付けられる。

我が国は、ホンジュラスに対する国別援助方針において、「地方活性化施策を中核とした持続的な社会経済開発への支援」を援助の基本方針に掲げている。本計画は、同方針において、深刻な貧困問題の緩和を図ることで持続的な地域開発に貢献することを目指す、重点分野「地方開発」における開発課題「社会経済基盤強化」に合致する。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

(ア) 施設、機材等の内容：国道 1 号線上のグアシロペ橋（約 160m）の架け替え及び前後のアクセス道路の整備

(イ) コンサルティング・サービスの内容：詳細設計・入札補助及び施工監理

(ウ) 調達・施工方法：協力準備調査にて確認

② 期待される開発効果

事業完成 3 年後には、対象地域の物流が促進され（平均交通量(台/日)6,365→9,404, 旅客量(万人/年)1,033→1,309, 貨物量(万 t /年)1,507→2,226), 経済活動の活性化に裨益することが期待される。また、同国及び中南米地域の陸上輸送基盤の強化と貿易促進、ひいては周辺地域の雇用と生活の安定化が期

待される（詳細は協力準備調査で確認）。

- ③ 計画実施機関／実施体制：インフラ・公共サービス省（INSEP）
- ④ 他機関との連携・役割分担：米州開発銀行（IDB）は「CA1 道路リハビリ事業」により、本計画対象グアシロペ橋が位置する国道 1 号線（CA1）上の劣化・損傷した道路の舗装を実施中。
- ⑤ 運営／維持管理体制：戦略投資基金（INVEST-H）（総合調整省の下部組織）が行う。

（2） その他特記事項

- ・ 同国の所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用」に基づき、無償資金協力の供与適否について精査が必要である。本計画は、国道 1 号線上に残る老朽化した橋梁の架け替えであるため、迅速な対応が望まれている（「緊急性・迅速性」）ほか、中南米地域内全体に裨益すること（「広域性」）から、無償資金協力の供与が適当と判断される。
- ・ 同国では、我が国の無償資金協力で建設された橋梁が 1998 年のハリケーン・ミッチに耐えた経験以降、橋梁建設が我が国の「質の高いインフラ」の象徴として認知され、所得水準の低さから国家予算のみでのインフラ整備が困難な同国にとって重要な役割を担ってきた。また移民増加が問題化する中米地域において、我が国は社会サービスの充実や経済活動の活性化による住民の定着・域内の安定化に協力しており、本計画もその一つと位置付けられる。
- ・ 環境社会配慮力カテゴリ： B
- ・ ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当し、協力準備調査にてジェンダーに係るニーズを確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

過去の道路整備セクターにおける類似案件の事後評価等では、事業の設計段階から交通安全性の確保に向け可能な対応策についても考慮すべきとの教訓が示された。本計画においても、グアシロペ橋における歩道の幅員の狭さが指摘されていること等を踏まえ、利用者への安全に配慮した設計を行う。

以 上

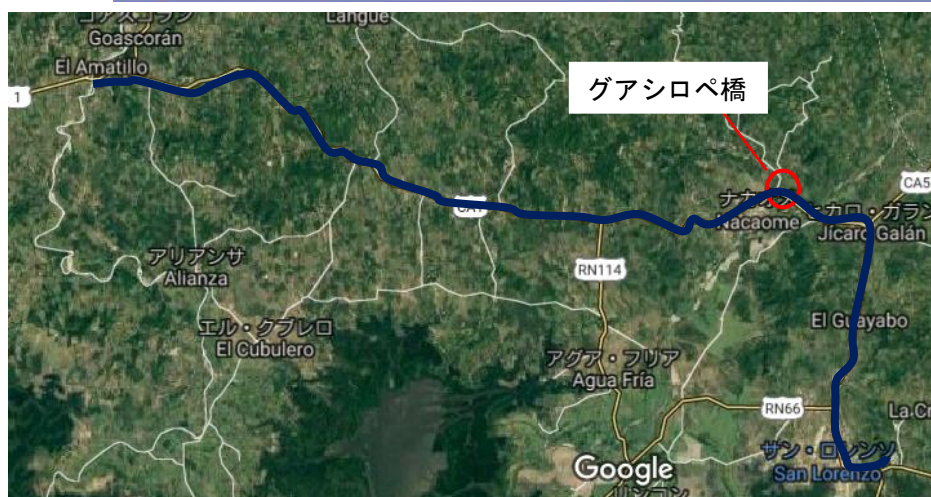
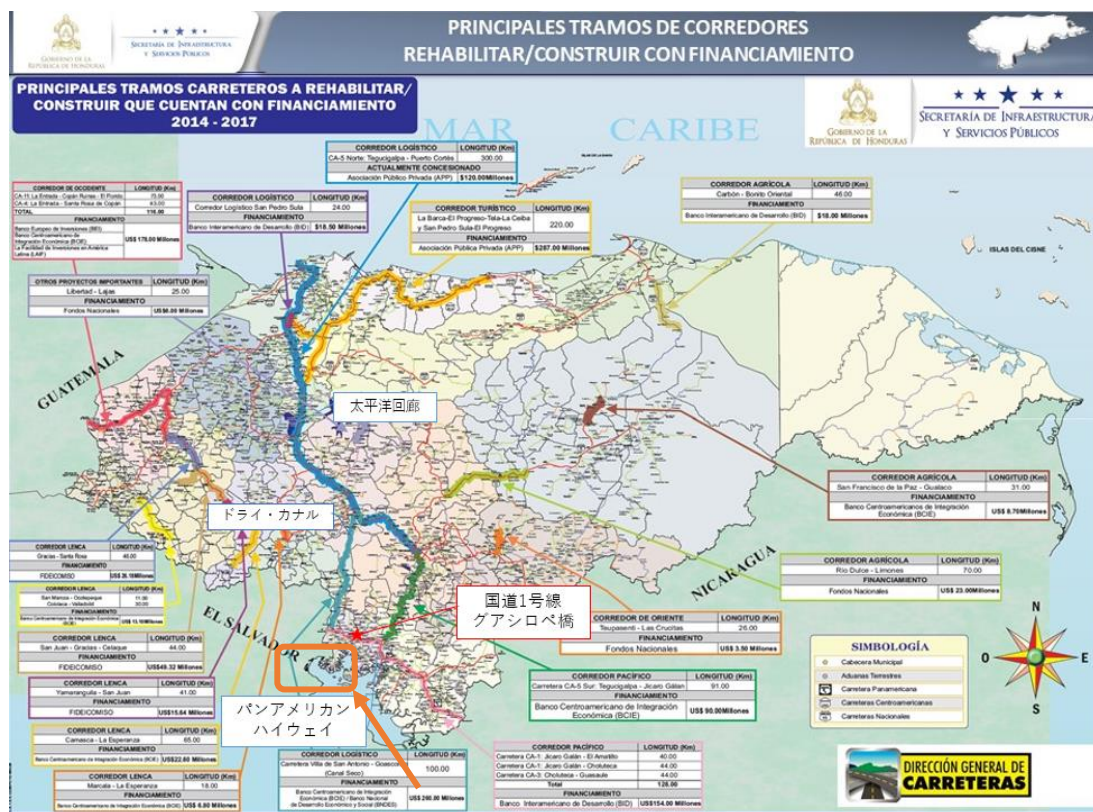
国道 1 号線橋梁架け替え計画 地図

① パンアメリカンハイウェイ

出典： ©2019 Google



② ホンジュラス全土 出典：インフラ・公共サービス省作成



③ 対象地域

出典：©2019 Google

※青線は米州開発銀行（IDB）
の「CA1 道路リハビリ事業」
の対象区間